

令和6年度 教員地域貢献活動支援事業（学長裁量事業）

地域実践研究 成果報告書

本事業について次のとおり成果を報告します。また、当該事業の経費執行については、規程等を遵守し適正に使用しました。

1 研究課題名

未来につなぐ持続可能な街を目指したファンづくり：領域横断的アプローチによる地域連携の実証研究

2 研究代表者

氏名・所属・職位	柴田 典子・国際商学部・教授
----------	----------------

3 連携相手先

組織名	横浜中華街発展会協同組合
-----	--------------

4 研究体制

氏名・所属・職位	有馬 貴之・国際教養学部・准教授
----------	------------------

※連携相手先以外で、本事業に協力した・参画した機関等（該当がある場合記載）

組織名	
-----	--

5 この研究活動の概要

横浜中華街を対象に、持続可能な街を目指したファンづくりに関する実証研究をおこなう。国際商学部、国際教養学部の教員の共同研究体制で、これまで「ヨコイチ×横浜中華街プロジェクト」として実施した領域横断的アプローチからより焦点を絞り、主に街のデータ活用を中心とする。

横浜中華街発展会協同組合との連携のもと、多面的な街の魅力理解と、分析結果のマーケティング戦略への活用を目的とし、地域連携と異分野融合で新たな価値創造を目指す。

6 この研究を実施する目的



図. ヨコイチ×横浜中華街プロジェクト：準備段階から今年度計画の流れ

【研究の背景】

我々は、2021年度に「ヨコイチ×横浜中華街プロジェクト」を立ち上げ、本事業における研究活動を2022年度より継続している。

横浜中華街は、商業地、観光地、居住地という3つの側面を持つ複雑な街であり、特有の文化を有する街として、日本および東アジア最大の中華街として知られている。これまで、横浜中華街の活性化のために横浜中華街発展会協同組合は尽力を続けているが、持続可能な発展に向けた新たな課題が生じている。これらの課題として、横浜市の来街者の宿泊者数や観光消費額の低さ、回遊性の低さが主要なものとして挙げられる。

横浜中華街においては、夜間の需要減少もいまだ課題のひとつといえ、街の夜間経済に深刻な影響と、個店の営業能力に制限を生じさせている。

本プロジェクトではこれまで、多岐にわたる街の課題に取り組むためマーケティングと消費者行動分析、観光政策、高齢者福祉、組織戦略と会計による領域横断的なアプローチで取り組んできた。

未来を担う若者の視点を重視し、初年度から2年間は、4教員4ゼミのゼミ生も研究活動に参画する体制で、若い世代のファンづくりや、横浜中華街特有の文化の効果的な発信のための戦略立案と実証実験、イベント時の来街者実態調査、地域コミュニティづくり活動、組合員の満足度調査と要因分析を実施してきた。

これらの取り組みを通じて、本プロジェクト全体として、多面的に横浜中華街の地域課題を捉えることと同時に、将来を担う若者と地域の関係性構築・人材育成という点において、ある一定の知見を得た。

また、1年目の成果をもとに2年目の研究活動を改善し、より学術的研究アプローチを採用したことによる成果も得られたが、横浜中華街という街の魅力の本質を定量的に捉えたり、人流データや消費者調査データを具体的なマーケティング戦略に落とし込むための実用性や方法論については、多くの課題が残っている。

【研究の目的・達成したい目標】

本研究の主要な目的は、横浜中華街における人流データとオープンデータの活用に焦点を当て、街の魅力を深く理解し、それを具体的で効果的なマーケティング戦略に応用することである。この研究を通じて持続可能な発展のためのファンづくりを促進し、横浜中華街の持続可能な発展に貢献することを目指す。本研究プロジェクトの準備段階時期から今年度計画の流れを図に示す。

本研究のポイントは以下の点である。

① 人流データとオープンデータの活用と分析

- 横浜中華街の人流データとオープンデータを詳細に分析し、街の魅力を把握する。訪問者の行動パターンや好み、滞在動態などを分析し、街の魅力的な側面やポテンシャルエリアの特定などを行う。横浜中華街発展会協同組合が掲げる「横浜中華街はGatewayになる」というビジョン⁶に基づき、横浜地域経済における役割を捉える。
- データの分析と利活用は、地域の魅力とポテンシャルを把握し、より効果的なマーケティング戦略を実現するための重要な手段であり、一層注目が集まっている。人流データ、オープンデータ⁷、消費者データの分析により得られる洞察は、地域固有のニーズを理解し、来街者の特性に合わせたカスタマイズされた体験と価値提供を可能にする。

② マーケティング戦略への応用

- 得られたデータを、横浜中華街特有の文化的・商業的魅力を活かしたマーケティング戦略策定につなげる。来街者の回遊状況と来街者属性を組み合わせることで、世代による回遊範囲やエリアの差異を捉えたり、来街者調査（消費者調査）によって街への魅力の感じ方を測定することによって、どんな人々が、どんな時に、どこへ行き、どのように動くのか、を把握することができるだろう。
- これにより、ターゲットの動きに企画やプロモーション活動、特定エリアや時間帯の活性化のためのマーケティング戦略に活かすことができると考えている。

以上の取り組みは、地域の魅力を広く伝え、繰り返し訪れるファンの創出に通じるものであり、ひいては横浜中華街の持続可能な発展を目指す。

【研究の意義】

本研究は、地域社会の持続可能な発展という大きな目標に貢献すると同時に、地域特有の文化と商業活動を融合させた新たなマーケティング手法の可能性を探求するものである。主たる意義を下記に示す。これは、横浜中華街のみならず、他の地域や都市にも適用可能な価値ある知見をもたらすという点でも意義がある。

① データ分析による街の魅力の把握とマーケティング戦略への応用

昨今のデータ環境および分析手法の進展により、より深い顧客理解とパーソナライズされたマーケティング戦略の実現が可能となっている。本研究は、横浜中華街の魅力的な側面や訪問者の動向を詳細に分析することで、地域の特性を活かした具体的かつ効果的なマーケティング戦略の策定を目指す。

② 持続可能な街の発展への貢献

繰り返し訪れる訪問者（ファン）の創出を通じて、地域経済の活性化と文化的魅力の保護・伝播に貢献する。また、ナイトエコノミー（夜間経済）の振興につながる施策も、横浜中華街の長期的な繁栄に重要な要素となるだろう。

③ 若者の視点を重視した地域への新しい視点提供

過年度の取り組み成果に加え、今年度も街の将来を担う世代である学生によるフィールドワークや調査活動を研究活動に取り入れる。このことは、横浜中華街が文化的アイデンティティを維持しつつ、現代的な商業活動を展開し、持続可能な発展を達成するために重要である。

④ 異分野融合の促進

有馬による地理学、観光政策、人流データ解析の専門性と、柴田のマーケティング、消費者行動分析、ブランド論の専門性は、相乗効果により深い洞察を得ることが可能となる。

【前年度との相違点】

本研究は、前年度までの横浜中華街に関する研究を基盤として、さらに深化と具体化を図るものである。特に、前年度の研究では複数の学部が協力し、異分野間の連携を試みたが、本研究ではこれをさらに進展させ、より具体的な研究手法と実施体制に重点を置く。

前年度との主な相違点は、次のとおりである（図「ヨコイチ×横浜中華街プロジェクト：準備段階から今年度計画の流れ」も参照のこと）

① データ分析の深化

前年度では複数の分野からの知見を活用したが、本研究では特に人流データとオープンデータの分析に焦点を当て、より詳細な地域の魅力の把握とマーケティング戦略への応用を目指し、研究の統合を図る。

② 活動の実践的進展

2023年度の活動の成果と課題を踏まえ、2024年度はより学術的な成果を意識した実証分析に重点を置く。このアプローチにより、横浜中華街のファンづくりや地域コミュニティづくり活動を更に推進する。

③ 地域貢献のさらなる拡大

総合大学としての地域貢献の可能性をさらに探求し、社会課題解決に向けた価値創出の機会として位置づける。本研究活動は横浜中華街のみならず、大学と地域、企業間の連携体制構築のフォーマット開発にも寄与する。

7 実施した内容（スケジュールと具体的な活動、実績、成果）

① 人流データとオープンデータの活用と分析

- ・ 横浜中華街を取り巻く人流データの分析を実施
 - 2024 年度前半に、横浜中華街を含む横浜市中心部における人流データの広範な分析を実施した。
 - 2024 年度後半（10 月～3 月）には、横浜市政策経営局・にぎわいスポーツ局との連携事業として、イベント評価のための人流データ分析にも展開した。
- ・ オープンデータの利活用に関する分析プロセスの研究を実施
 - 地域の意思決定に役立つように、観光客数などのオープンデータの利活用に関する分析プロセスを設計・検討し、特に、高度な専門知識を有していなくても扱いやすい簡便な分析プロセスを検討した。
 - 複雑な変数群を要約し、解釈可能なモデルに変換することで、実務で使いやすいフレームワークを構築した。観光客数データに対して有効性を確認した。

② マーケティング戦略への応用

- ・ 横浜中華街の来街者調査、および消費者データの分析
 - 来街者調査、および、一般消費者に対する消費者調査（定性、定量）を実施し、その分析を通じて、横浜中華街の多様な魅力を発信する「語り部」を増やすことを目指した実践的施策を立案した。
 - 本研究課題の重要な要素である「若者の視点を重視した地域への新しい視点提供」として、所属ゼミ生による調査と発想により、ホームページやデジタルサイネージで展開できる診断チャートを開発し、提案した。その有効性をサーベイ実験と来街者に対するフィールド実験で検証した。

8 この研究により得られた効果と自己評価

- ・ 人流データの分析では、横浜中華街を取り巻く状況についての人流データ分析を行い、イベント評価の方法のひとつとして、GIS を用いた可視化を実施することができた。また、天候や情報による人流への影響も一定程度明らかにすることができたが、検証事例の数をより増やしていかなければならない。
- ・ オープンデータの利活用方法については、観光客数のオープンデータを効果的に活用するフレームワーク構築に取り組み、有効性を確認することができた。一方で、他の多変量解析手法の活用可能性や、より粒度の細かいデータへのアクセスと統合が今後の課題である。
- ・ 消費者調査データに基づく横浜中華街における戦略立案では、上述の通り、街の未来を担う若い視点によって、横浜中華街での様々な楽しみ方や魅力の発見をサポートする、来街者向けの診断チャートを開発・提案した。横浜中華街発展会協同組合内で実装可能性について検討に入っている。

9 今後の課題と展開

人流データ、オープンデータ、一次データとして消費者調査データの活用・分析において、それぞれ、他のデータと組み合わせた分析を進めることが必要である。

あわせて、分析結果を街の現場における企画や施策に活かすためのマーケティング的手法論の確立が求められる。そのためにも、分析結果を理解しやすい表現（可視化）方法の開発も重要な課題であり、今後の展開として検討している。

10 本事業に関する研究発表、メディア掲載等（予定を含む）

※論文の場合は、論文名、著者名、掲載雑誌名等を記載してください。

学会報告

横山暁・有馬貴之(2024)「非対称クラスター分析法を用いた GPS データの分析」『日本行動計量学会大会抄録集』 52 (0), 98-99

Soh Sakurai, Noriko Shibata, Akira Nagamatsu(2024)"Proposed Analytical Process for More Convenient Utilization of Open Data", *IIAI Letters on Institutional Research*, No.4, 1-14, <https://doi.org/10.52731/lir.v004.281>

メディア掲載

神奈川新聞（2024年10月16日）「外部連携 横浜盛り上げ 中華街発展会協同組合 食ロス削減、電子看板…」4面

カナロコ（2024年10月23日）「食ロス削減、電子看板… 横浜中華街発展会協同組合、外部連携して 2025年3月27日ハマを盛り上げ」神奈川新聞社, <https://www.kanaloco.jp/pr/article-1117983.html>

日本農業新聞（2024年11月29日）「日大、横浜市大に栄冠 アグリカルチャーコンペ」2面, <https://www.agrinews.co.jp/news/index/273724>

横浜市政策局 STYLE100(2025年3月27日)「ダーパオでお持ち帰りしよう」, <https://style100.city.yokohama.lg.jp/article/article-763/>（※横浜中華街発展会協同組合が取材対象の記事）